

土台骨が搖ぎ出して

秋風落葉の平町役場
水道完成か？人事の煩か？

辭表を出した伏見町長

伏見町が最も安當な見解らしいと
長が辭の事である。蓋し上水道が
完成し公食堂の目鼻がつき

期して酒井助役の前へボンと投げ出した其の辭表問題

こそ、全然之を豫想せなかつた役場内は勿論全町民に

取つても全く空谷梵音の驚異であつた、而も天下の名

町長として恒にその施設計画宜しきに適し、近き将来の平市長としても間然する

處無い人物として來春の満期にも次期町長の有力な候補者と目されてゐた丈り、因て以て描き出される波紋は蓋し決して小さいものでは無い。

病氣養育——あるも日頃課として欠かした事のない弓道で鍛え上げたあの肉體、本卦遅りを超過する事故に二年などとは凡そ受取る事の出来ぬ伏見町長に病氣その任に堪へぬ。は些か眉唾ものであるばかりか所謂神韻漂渺、一種の禪味併骨を帶びて生氣紙上に運動する氏一一流とも云ふべき文字の一點一劃はぞうした病人の辭表として餘りに筆力が雄勁である、直に首肯出來ぬ伏見町長の病氣？そこには必ずや何等かの事情が潜んでゐなければならぬ。之れが此際何人も懷かずには居られない疑問である。

或るものは、上水道擴張工事の完成を轉機とした豫定の行動である——と觀察した。また最近水道課長を中心とした何や彼やの問題に就て其の煩はしさに厭気がさし、助役以來永い年月お馴染みの砲きも脅かれる至つたのであらう？と観てある向も可なりあるらしいが二者何れも各々その原因をして半ばして居るを見るく抑へ乍ら言つた『昨日は昂々溪の激戦で悲壯な最後鳴咽を始め聲を立て涙く

見聞城磐 日四十一年十月七日和昭

忠實なる造り方で無い。自分が畢世の心血を傾注した上水道の擴張工事が竣工した、此の期に於て病氣の静養をし度い、今に於て辭表を決行する所以である。

と云ふ理由の下に辭意を翻さないので其旨委員から全員に報告し、今十三日その旨を告示した。

悠久の身を

講演行脚

員に報告し、今十三日その旨を告示した。

斯く觀じ来る時に於て伏見町長の退讓は最も潮時で最も現れ、最も見事な所である。

見町長今回の辭表提出は留任運動其他之が爲に生ずる結果を豫見し所謂『留める

緯無しと断せられぬ節があるからである。

見町長は何だ彼た云つた一部の連中もさへ愈々

十年來の公職を離れ、愈々

名町長へ去られるとなると

氏は差し當て

の上適當

逃真、在職中は何だ彼た云つた一部の連中もさへ愈々

自適の生活に入る伏見彦衛

川、四倉港、仁井田川を視察し湯本松柏館に一泊今十

月未に完成來月十九日竣工する事となつた。

新川工事認可。平町外二

三百圓の改修工事は昨十二

月附で認可され一兩日中着

続けて來たが此程但志、村を求めた

忠實なる造り方で無い。

自分に報告し、今十三日その旨を告示した。

忠實なる造り方で無い。

忠實なる造り方で無い。